

別 紙

史跡名勝天然記念物

(平成29年6月16日現在)

種 別	現在指定件数	今回答申件数			合計（現在指定件数と 答申件数との合計）
		新指定	解除	統合に よる減	
史 跡 (うち特別史跡)	1, 7 8 4 (6 1)	1 1 (1)	0 (0)	0 (0)	1, 7 9 5 (6 2)
名 勝 (うち特別名勝)	4 0 2 (3 6)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	4 0 8 (3 6)
天然記念物 (うち特別天然記念物)	1, 0 2 4 (7 5)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1, 0 2 5 (7 5)
合 計	3, 2 1 0 (1 7 2)	1 8 (1)	0 (0)	0 (0)	3, 2 2 8 (1 7 3)

(備考)

件数は、同一の物件につき、二つの種別に重複して指定が行われている場合（例えば、名勝及び天然記念物など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複指定物件を1件として数えた場合、

現在指定件数は、 3, 0 9 6 件

答申後合計件数は、 3, 1 1 4 件 です。

登録記念物

種 別	現在登録件数	今回答申件数		合計（現在登録件数と 答申件数との合計）
		新登録	抹 消	
遺跡関係	6	3	0	9
名勝地関係	87	2	0	89
動物、植物及び 地質鉱物関係	6	0	0	6
合 計	99	5	0	104

（備考）

件数は、同一の物件につき、二つの種別に重複して登録が行われている場合（例えば、遺跡関係及び名勝地関係など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複登録物件を1件として数えた場合、

現在登録件数は、 97件

答申後合計件数は、 102件 です。

重要文化的景観

種 別	現在選定件数	今回答申件数		合計（現在選定件数と 答申件数との合計）
		新選定	解 除	
重要文化的景観	51	7	0	58

利神城跡概要

- 1 名称 利神城跡（りかんじょうあと）
- 2 指定等の対象の所在地 兵庫県佐用郡佐用町平福298番地1外 334筆等
- 3 指定等の対象地域の面積 864,134.35㎡

4 利神城跡の概要

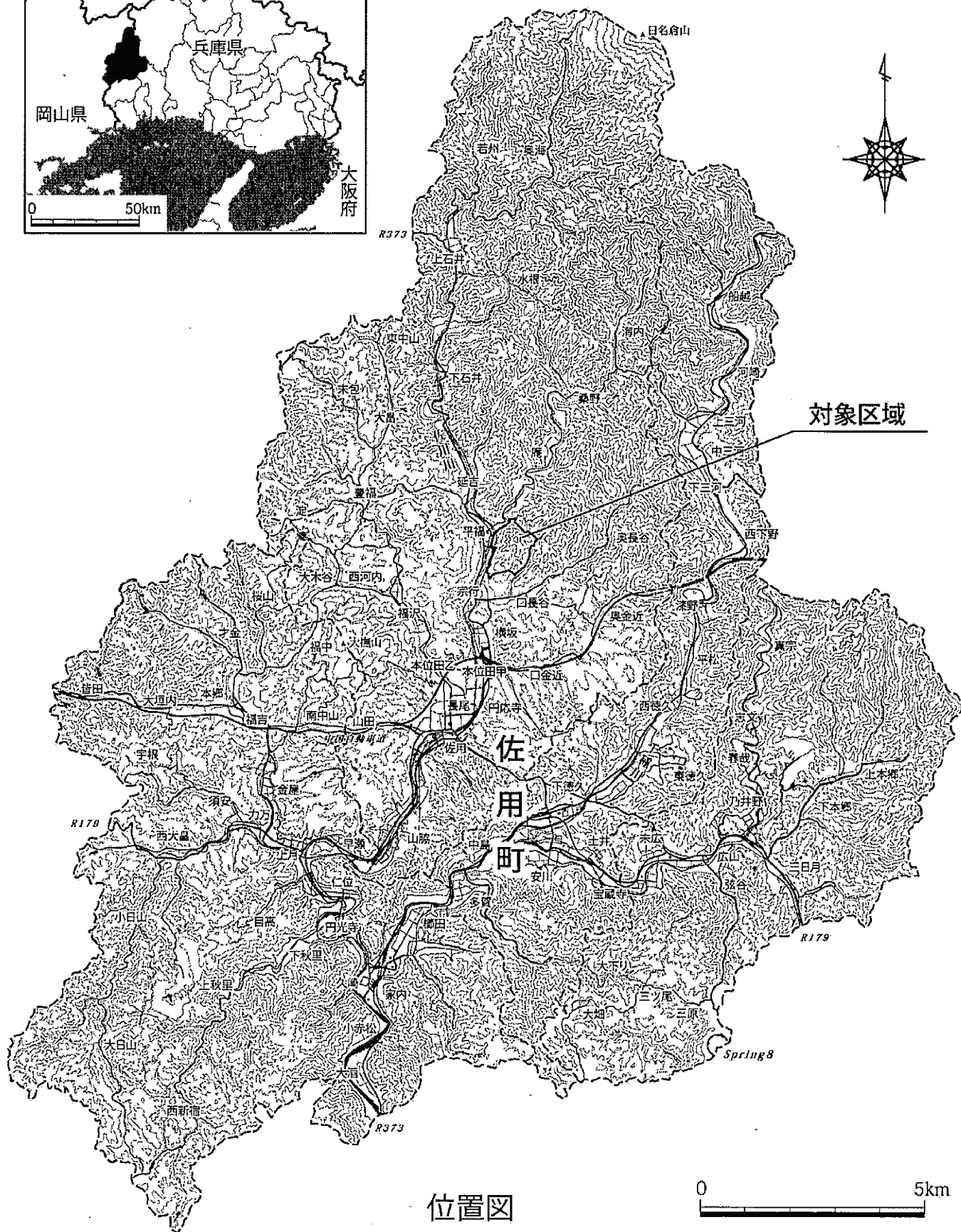
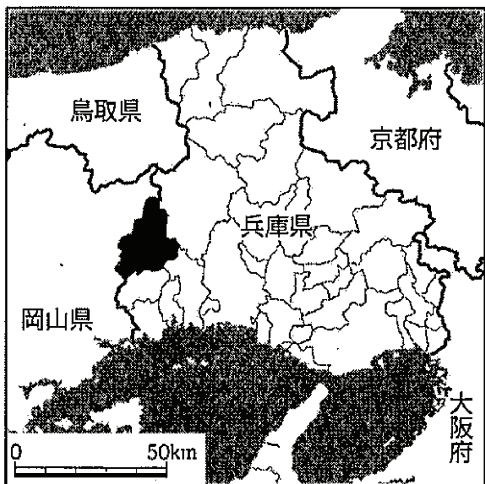
中世から近世初頭にかけて、播磨国北西部の軍事・政治的拠点として営まれた城跡である。^{くもつきじょうあと}雲突城跡ともいい、兵庫県西部の山間地を流れる^{さよがわ}佐用川及び同川支流^{いおりがわ}庵川の左岸、標高373mの利神山山頂部及び西山麓に所在する。戦国時代には別所氏の居城とされ、慶長5年（1600）、^{いけだてるまさ}池田輝政が関ヶ原の戦の勲功によって播磨国52万石の国主となると、国内六支城（明石、三木、高砂、龍野、赤穂、利神）整備の一環として、播磨・美作国境の要となる利神城の大規模改修が行われ、最後には平福藩（元和元年〈1615〉～寛永8年〈1631〉）の拠点として機能した。利神山の山頂を中心に、南北350m、東西200mの範囲に曲輪が展開し、天守丸・本丸・二の丸・三の丸には、高石垣が構築されている。また、西山麓の居館跡は、南北370m、東西110mの規模で、南北を石塁で仕切り、南側は前面に堀を有し、西側は佐用川と支流の庵川を自然の堀としていた。^{ますがたこぐち}枅形虎口から山上の三の丸に向け登城道が延びる。近世初頭の高石垣を有する山城として、また山城と山麓の居館が一体として残る事例として貴重であり、中世城館から近世城郭への変遷、近世大名による支城体制を理解する上で重要である。

5 指定する主な範囲



山城跡、山麓の居館跡など

6 注意

利神城跡の山城地区は、城郭の一部が崩壊し、登山道も滑りやすく大変危険ですので、一般の方の登山は制限されています。城跡遺構の保護及び事故防止のため、登らないようお願いいたします。道の駅ひらふくの展望デッキや、西はりま天文台公園から遠望ができます。



添付資料 図面 B2

-  指定対象範囲
-  今後保護を要する範囲

